

# ヒロシマ 音の記憶

Vol.4 ~継承~



広島学生音楽連盟 秋の学生音楽祭  
旧広島高等学校(現 広島大学附属中・高等学校 講堂)にて

福山公演

2014. 2. 9 (日)

開演 13時30分 (開場13時00分)

場所 ふくやま芸術文化ホール  
リーデンローズ (小ホール)  
広島県福山市松浜町二丁目1番10号

主催

「ヒロシマと音楽」委員会

〒730 0012 広島市中区上八丁堀 8-14-5F  
NPO法人 ANT-Hiroshima 事務局内  
TEL (082)502-6304  
MAIL [hirongaku@hirongaku.com](mailto:hirongaku@hirongaku.com)  
WEB <http://hirongaku.com/>

- 公益財団法人ヒロシマ平和創造基金  
ヒロシマピースグラント助成事業
- エネルギー文化・スポーツ財団助成事業

後援

福山市、福山市教育委員会、  
中国新聞社、中国放送、  
広島テレビ、広島ホームテレビ、  
テレビ新広島、広島エフエム放送

## ご来場の皆さまへ

「ヒロシマと音楽」委員会が、「ヒロシマ」をテーマとする音楽作品を記録し、データベース化を行う活動を始めて19年目になります。今日もなお、「ヒロシマ」をテーマとする新しい作品が生まれ続けています。「ヒロシマ」は時代の変化とともに常に新たなインスピレーションを人々に与え、創作させる大きな力を持っているようです。また当委員会は、機会あるごとに、様々な企画のもと楽曲の音源化に努め、コンサートを開催してまいりました。

本日のコンサートは「ヒロシマ・音の記憶」シリーズのVol.4です。「音」<sup>あと</sup>の中に眠る広島<sup>の</sup>の記憶に耳を澄ませたいという願いから始まり、「Vol.1～出会い～」、「Vol.2～繋がり～」、「Vol.3～歩み～」、「Vol.4～継承～」とコンサートを続けてきました。音楽には無限の可能性と悦びがあり、絶望的な状況の中にあっても、人を生へと導く力があるようです。かつて「ヒロシマ」を生きた若人と「ヒロシマ」を受け継ぐ若人が、音楽を通して、出会い、繋がり、歩み、継承していく過程を、本日のコンサートを通して皆さまに感じていただけたら、何よりの喜びです。

本日はご来場いただき、本当にありがとうございました。

2014年2月9日

「ヒロシマと音楽」委員会  
委員長 渡部 朋子



## 企画にあたって

「ピアノがなくなっても声は出るわけだから……。どんなときでも歌は力になる。」

「広島学生音楽連盟」の活動を振り返りながら、千葉佳子さんは現在の若者との対話の中でこう言いました。被爆の翌年、荒廃した広島を復興させたいという思いで集まってきた若者たちにより結成された「広島学生音楽連盟」。チャリティー・コンサートを開き、壊れた校舎やピアノを修理する費用に充てていたそうです。けれども、あの日を境に死と向き合い続けていた若者たちを再び突き動かしたのは、好きな音楽を好きな仲間とともにやりたいという、ただそれだけのことだったのかもしれませんが。結局、その熱い思いは「ただそれだけ」に終わらず、多くの人を巻き込みながら戦後の広島に豊かな種を蒔いていきました。

「広島の音楽史」を辿る過程で私たちがみつけたこの「広島学生音楽連盟」の活動は、長らくの間、活動に参加した人々の間でのみ語られる存在でした。歴史に埋もれつつあった若者たちの熱い思いを多くの人に知ってもらえたら……。これが本日の企画の意図です。通常のコンサートとは少し趣が異なりますが、被爆から現在につながる長い歩みをご自由に感じていただければ幸いです。

本日はご来場ありがとうございました。

「ヒロシマと音楽」委員会  
企画担当 能登原 由美

## 第一部

ドキュメンタリー映画上映

「音の記憶・つながり」(68分)

出演：原田 雅弘、千葉 佳子、

崇徳高等学校グリークラブ、広島女学院高等学校音楽部、安田女子高等学校音楽部、ほか

監督・撮影：青原 さとし

企画：「ヒロシマと音楽」委員会

製作：「ヒロシマと音楽」委員会、NPO法人ANT-Hiroshima

\*\*\* 休憩 \*\*\*

## 第二部

二重奏  
(マリンバ・ピアノ)

「春の海」

宮城 道雄 作曲 / 島津 秀雄 編曲

「心に咲く花」

坪北 紗綾香 作詩・作曲・編曲

「野ばら」

ヨハン・ヴォルフガング・フォン・ゲーテ 作詩 / フランツ・シューベルト 作曲

「大地讃頌」(混声合唱とオーケストラのためのカンタータ《土の歌》より)

大木 惇夫 作詩 / 佐藤 眞 作曲

独奏  
(マリンバ)

「ランド」

村松 崇継 作曲

二重奏  
(マリンバ・ピアノ)

「里の秋」

斎藤 信夫 作詩 / 海沼 寛 作曲 / 山田 香 編曲

「母と子の八月八日」

2009年度福山市立女子短期大学保育科卒業研究大庭ゼミ 作詩・作曲 /

大庭 三枝 監修

「花は咲く」

岩井 俊二 作詩 / 菅野 よう子 作曲・編曲

\*16時 終演予定

「広島学生音楽連盟」の活動の様子を追ったこのドキュメンタリー映画は、「ヒロシマと音楽」委員会が現在も継続して行っている「広島音楽史」記録・編纂のためのインタビュー調査がそもそもの始まりである。被爆の翌年に合同合唱団を結成し、学校復旧の資金を得るために郊外の小学校などでチャリティー・コンサートを開いていたという話、さらに「一流の音楽を広島に」という思いから、東京から一流の音楽家を招き、僅かに焼け残った学校講堂などで演奏会を開催したという話、聞けば聞くほど若者たちの生への情熱を感じずにはいられなかったが、彼らの活動が関係者以外にはほとんど知られないままになっていることも、その後すぐに知った。当時16～18歳だった彼らはすでに80歳は越えているはず。この記録を関係者の証言をもとに残していくには今、動かなければならない。駆られるようにして映像作家、青原さとし氏に撮影を依頼し、インタビューを記録し始めた。2010年のことである。

翌2011年6月に行う予定だったコンサート「ヒロシマ・音の記憶 Vol.2～繋がり～」では、短編映像として彼らの活動を紹介し、市内の高校生による合同合唱団を結成して当時を振り返るという企画を進めていた。そのチラシが完成し、市内施設への発送作業をしている最中に、あの東日本大震災が起きた。繰り返し報道されるその映像を見たときに頭に浮かんだのは、合同合唱団に歌ってもらうことになっていた《土の歌》の歌詞。広島出身の詩人、大木惇夫によって詠まれた反核・平和を訴えるこの詩を若者に歌ってもらう意味は何なのか？65年前、荒廃した故郷を復興させるために奔走した若者の思いを未来に伝えるとはどういうことか？当時だけを記録するのではなく、現在の若者の思いやエネルギーも記録にとどめ、さらに、時を超えた若者たちの邂逅の場を記録に残しておく必要がある。そうした思いが募り始めたのはその頃ではなかったかと思う。

それから2年、被爆後の、そして今の若者たちの音楽の軌跡を辿ることになった。昨夏、ようやくドキュメンタリー映画として完成させ、広島市内で一般公開を果たすに至る。何十年か先になってもこの映画を見た若者がつねに何かを感じてくれれば・・・映画を製作した私たちにとってはそれだけでも十分満足である。

2014年2月9日  
「ヒロシマと音楽」委員会  
NPO法人 ANT-Hiroshima



## <本日の演奏曲について>

本日のコンサートのプログラムは、本日上映の映画「音の記憶・つながり」に関連する音楽作品で構成されています。つまり、映画の中で取り上げられた作品、映画のテーマである平和への祈りのための作品、映画において描かれた福山空襲や福山に関わりのある作品、そして映画に登場する若者たちの願いであった「荒廃からの復興」を希求した作品という4つの「つながり」を通して、映画とコンサートが結びついているのです。この中で、本公演の地である福山に関わりのある3作品についてご紹介しましょう。

### 「春の海」

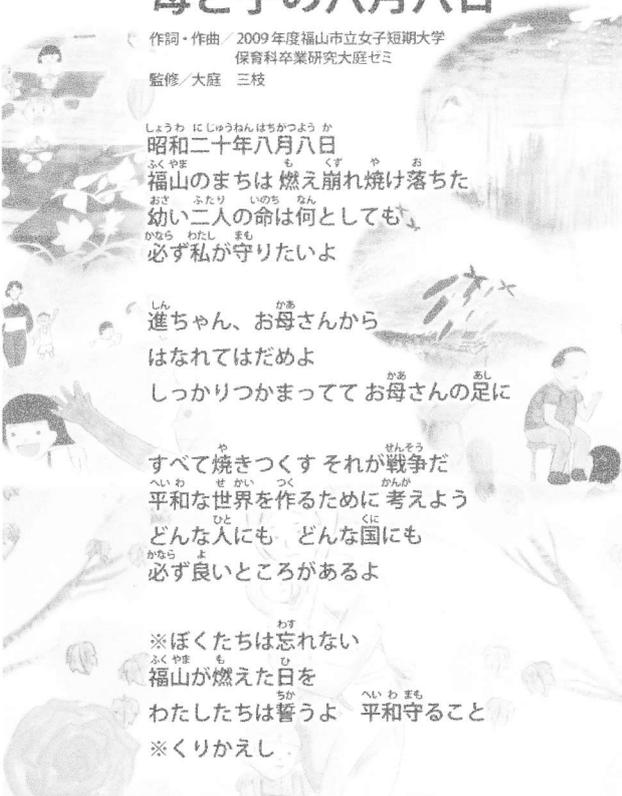
作曲者が幼少期を過ごした福山市の鞆の浦の風景をもとにした作品であるといわれています。1929年の箏と尺八という編成での初演ののち、1932年にはフランスのヴァイオリニスト、ルネ・シュメーとの箏とヴァイオリンによる演奏が好評を博しました。今日では、お正月の時期によく耳にします。

### 「心に咲く花」

福山ばら祭のテーマソングであり、福山市の市制施行90周年を記念して行われた市民公募から誕生した作品です。以降、市内小中学校等において合唱・合奏などの形で広く演奏され、市民の「仲間づくり」「友だちづくり」「まちづくり」に活用されています。

### 「母と子の八月八日」

この作品は、2009年3月に刊行された絵本『母と子の八月八日ー福山空襲と母子三人像ー』の完成記念朗読会後に監修者に届いた、福山市民の声から着想されました。——「大庭先生、この絵本は小学生でもちょっと難しい。母子三人像の子らと同じ5歳と2歳の子どもでもわかるような紙芝居を作ってくれんじょうか。」——要望に応え、2009年7月に紙芝居『母と子の八月八日』が制作されます。そしてこの紙芝居を通して、像のモデルとなった母子らの想いを現代の子どもたちへよりよく伝えるために生まれたものが、紙芝居のエンディングに歌われる本作品です。分かりやすい歌詞と旋律には、母子と現代に生きる私たちがともに平和のハーモニーを奏でられるようにとの願いが込められています。本日は、2009年に作成されたオリジナル版楽譜(斉唱用)にピアノ伴奏を加えての演奏となります。



**母と子の八月八日**

作詞・作曲 / 2009年度福山市立女子短期大学  
保育科卒業研究大庭ゼミ  
監修 / 大庭 三枝

しょうわ にしゅうわん はちがつよう か  
昭和二十年八月八日  
ふくやま も くず や お  
福山のまちは 燃え崩れ焼け落ちた  
おぼ ふたり いのち なん  
幼い二人の命は何としても  
かなら わたし まも  
必ず私が守りたいよ

しん ちゃん、お母さんから  
はなれてはだめよ  
しっかりつかまっててお母さんの足に

すべて焼きつくすそれが戦争だ  
へい わ せ かい つく かんが  
平和な世界を作るために考えよう  
ひと ひと くに  
どんな人にも、どんな国にも  
かなら  
必ず良いところがあるよ

※ぼくたちは忘れない  
ふくやま も ひ  
福山が燃えた日を  
わたしたちは誓うよ へい わ まも  
平和守ること  
※くりかえし

<出典：CD「母と子の八月八日」歌詞カード(2011年制作：大庭三枝 監修)>

# Profile

## 大迫 俊一 (マリンバ)

広島市出身。広島大学教育学部教科教育学科音楽教育学専修卒業。打楽器を金石あずさ、佐藤須美子の両氏に師事。1999年～2002年ツッカーズ定期コンサート、2004年東広島市立東志和小学校1/2成人式祝賀コンサート(招待演奏)、2004年PULSE 1stコンサート、2009年就実短期大学サマーコンサート(招待演奏)、2010年マリンバ&ピアノリサイタル等に出演、広島・福山を拠点に幅広い演奏活動を行っている。使用楽器はアダムスAD-MAHC50。パーカッションアンサンブルグループPULSE所属。現在、広島県福山市立蔵王小学校教諭。特技マリンバ、趣味マリンバ、マリンバをこよなく愛す。

## 大迫 知佳子 (ピアノ)

福山市出身。お茶の水女子大学大学院人間文化研究科修了。博士(人文科学)。ピアノを柳田圭子、佐藤紀美子、濱本恵康、横山幸雄の各氏に師事。第17回日本ピアノ教育連盟ピアノ・オーディション奨励賞受賞。第30回福山市新人演奏会等の諸演奏会に出演。研究分野では2008年度以降、文部科学省、公益財団法人ヒロシマ平和創造基金等の助成課題に採択される。主たる専門は近代国家形成期の音楽理論教育史・音楽文化政策史。日本音楽学会、日本リズム協会、広島芸術学会、ベルギー研究会会員、「ヒロシマと音楽」委員会委員。現在、独立行政法人 日本学術振興会海外特別研究員。趣味は読書、料理、夫と他愛ない話をする事。

## 青原 さとし (監督)

ドキュメンタリー映像作家。1961年広島生まれ。広島を拠点に地元を中心としたドキュメンタリー映画を次々に制作している。代表作：2003年『土徳－焼跡地に生かされて』、2004年『雪国木羽屋根物語』、2006年『望郷－広瀬小学校原爆犠牲者を探して』、2007年『藝州かやぶき紀行』、2010年『三百七十五年目の春風』、2011年『タケヤネの里』『時を鑄込む』、2012年『大遠忌見聞記』、『イトー・ターリ パフォーマンス ひとつの応答in原爆ドーム前』、2013年『御相続』。現在、福島県相双地方を舞台にした『土徳流離』を製作中。



## 「ヒロシマと音楽」委員会について

被爆50周年を機に、「ヒロシマ／ナガサキ」や反核をテーマとする音楽作品のデータベース化を行うために結成されました。現在、データは2000曲を超え、2006年には作品の一部紹介とリストを掲載した『ヒロシマと音楽』（汐文社）を出版しています。また、2010年よりコンサート・シリーズ「ヒロシマ・音の記憶」を開始するとともに、2012年には、明治以降の広島の音楽史を編纂する事業も開始しています。

詳しくはホームページをご覧ください。<http://hirongaku.com/>

∞「ヒロシマ・音の記憶 Vol.5」のお知らせ ∞

日 時：2014年12月13日(土) 18時開演(予定)

場 所：日本キリスト教団 広島流川教会

「ヒロシマ復興を音楽とともに歩んだ教会」というテーマで開催します。

詳細につきましては、内容が決まり次第、委員会HPにてお知らせします。

## 「広島学生音楽連盟」について

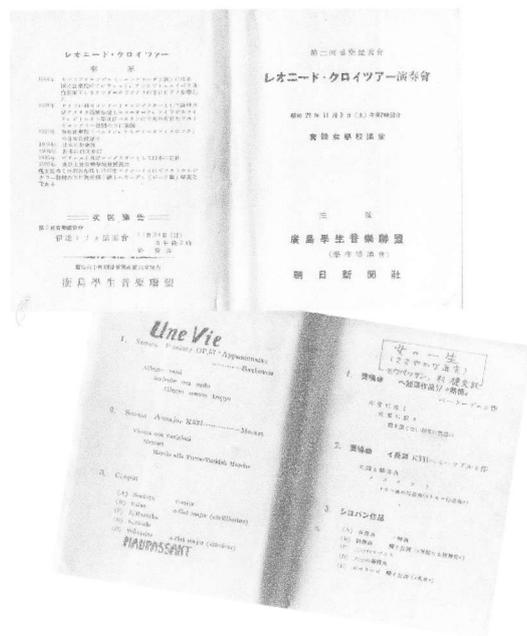
被爆の翌年、広島の学生たちが集まり合同合唱団を結成した。参加したのは広島高等学校、広島女子専門学校、広島女学院専門学校、広島高等師範学校、広島高等工業学校、広島実践高等女学校の生徒たち。彼らは自らを「広島学生音楽連盟」と称し、戦時中には歌うことのできなかつたさまざまな音楽に手をのばした。たとえば、「流浪の民」や「野ばら」などのドイツ歌曲は日常のレパートリーに、大きな行事になるとヴェルディやブラームスの「レクイエム」などにも挑戦した。

だがそれだけではない。彼らは市内に残ったほんの僅かな建物を使い、日本を代表する音楽家を次々と招いてコンサートを開催した。目的の一つは、学校の復興資金を集めるため、もう一つは、広島を音楽で元気にするため。たとえば次のようなコンサートを企画する。

- 第1回 四家文子独唱会  
(昭和21年10月28日 広島鉄道局講堂)
- 第2回 レオニード・クロイツァー ピアノリサイタル  
(昭和21年11月2日 実践女学校講堂)
- 第3回 伊達トリオ演奏会  
(昭和21年11月24日・広島高等学校講堂)
- 第4回 山上雅庸 ピアノリサイタル  
(昭和21年12月15日 場所不明)
- 第5回 豊増昇 ピアノリサイタル  
(昭和22年1月18日 場所不明)

### 【日時が不明のもの】

- ・宮原淳子 ピアノリサイタル  
(広島鉄道局講堂)
- ・柴田睦陸、長門美保による「蝶々夫人」(コンサート形式)  
(旭劇場)
- ・四家文子独唱会  
(広島高等学校講堂)



焼けた市内を文字通り東奔西走する彼らの活動は、昭和25年3月、主要メンバーの揃う広島高等学校の廃校とともに幕を閉じた。



広島学生音楽連盟卒業生送別音楽会 1948年2月11日  
<写真資料提供：原田雅弘>



一人ひとりを大切に いのち輝く未来へ

# 福山YMCAは、創立35周年を迎えました。



国際ビジネス専門学校  
ウエルネススポーツセンター  
総合幼稚園 外語学院  
芸大美大受験科 美術研究所  
デイサービスセンター  
国際コミュニティーセンター

福山YMCA

〒720-8522 福山市西町 2-8-15  
URL <http://www.hymca.jp/fukuyama/>



▲1951年10月21日 YMCA青年会員による音楽会を広島女学院にて開催し、戦後の復興期の広島において文化活動を牽引しました。

# CROSS ROAD CO., LTD.

◆ sound office ◆

番組企画制作 ラジオ・テレビのCM・番組の制作 PA・レコーディングのプランニング・オペレート  
音声中継車の運用 CM・イメージング制作 レコーディング・CD制作 イベントの企画制作

音に関する事なら 何でもおまかせください

## 株式会社サウンドオフィスクロスロード

〒730-0017 広島市中区鉄砲町1-24森川ビル402  
TEL (082) 222-3920/FAX (082) 222-3919  
MAIL: [info@so-crossroad.co.jp](mailto:info@so-crossroad.co.jp)

Watanabe General Law office

# 渡部 総合法律事務所

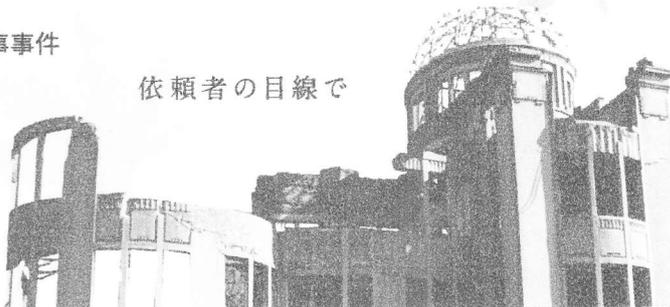
企業法務／倒産法務／労働法務／土地・建物をめぐる問題  
交通事故／相続問題／成年後見／離婚問題／税務・行政事件／刑事事件

弁護士 渡部邦昭

広島市中区上八丁堀安芸リーガルビル 4F(受付)  
TEL 082-211-3300 FAX 082-211-3301  
✉ [watakuni@ruby.ocn.ne.jp](mailto:watakuni@ruby.ocn.ne.jp)

ホームページ <http://www.watanabe-law.net/>

依頼者の目線で



**Carp 2013**  
熱き闘いの記録

前田智徳引退記念  
カープ2013総集編



カープCS感動シーン満載!!



好評販売中



2枚組  
¥3,800

約220分以上映像収録した2枚組DVD-BOX

前田 24年度を一年ごとに動画で紹介!! カープ シーズン総集編とカープCS  
10.3引退試合とセレモニーを収録 2013 全試合の熱き闘いを振り返る!!

販売! 取扱書店(県内主要書店) 〓カープショップ(マツダスタジアム内) 〓球団ホームページ  
〓球団公式携帯サイト「RCC広島カープ」 〓RCCショップ(RCCホームページ&携帯サイト)ほか

詳しくは「RCC 赤い伝説」ホームページまで <http://www.rcc.net> **RCC** 中国放送